宮崎日日
25.5.24 宮日

五感使い 水辺調査

大王谷学園初等部4年

日向市の大王谷学園初等部の4年生がこのほど、同市を流れる庄手川で「五感を使った水辺調査」を行った。児童は、耳を澄ましたりにおいをかいだり、と五感をフル回転させ水質検査や生態系調査に挑戦。身近な河川の魅力を再確認した。

生物を発見するたびに歓声を上げ喜ぶ子どもたち

庄手川の環境確認 「生き物いっぱい」

この取り組みは、改修工事が終了した河川の環境変化を観察する目的で、日向土木事務所が同校児童にモニターを依頼。今回は市や保健所も協力して実施した。

この日は、庄手川の荒井小橋付近で同校児童38人が調査を実施。六班に分かれ、川べりで聞こえる鳥の声や虫の声、水の透明度やにおいなどを、事前に用意された調査表にチェックしていった。

その後、実際に川に入り網を使って生き物を採取。子どもたちは、歓声を上げながらゲンゴロウやアメンボ、カワゲラなどを次々に捕まえ、図鑑と照らし合わせながら多様な生き物が生息していることを確認した。

最後に、調査結果とともに、今後の環境保全のためにできることなどを各班でまとめて発表した。安達航晴君(9)は「川遊びはよくするが、こんなにも多くの生物がいて、きれいだとは思わなかった」と話していた。